

財政問題

問 ※ 臨時財債に過度に依存していないか

答 借入が財政上有利な場合もある

(※ 臨時財政対策債)



松沢 貞一 議員

【財政運営について】

問 現状の健全性のレベルは。

村長 平成23年度決算数値では実質公債費比率が18%を下回る見込みで、数字的には財政は健全であると言えます。しかし、公債費支出は平成24年度予算では6億7000万円余で、予算全体の15%を占めており、軽くなったとは言えない状況です。危機的な状況は去ったものの、他市町村に比較するとまだ公債費は高めに位置しています。



幻想的な一瞬 (奈良井地域)

問 今後の見通しについて。

村長 平成24年度は固定資産税の評価替えのため、

村税は6000万円余の減収見込みですが、課税標準額が減少する場合は普通交付税の増額要素になり、税収減が急激に財政を圧迫することはありません。また普通交付税は次回の国勢調査までは平成22年度調査人口で算定されるため、人口面でも交付税に大きな影響はないと見えています。財政規模も平成4年度頃に近くなっており、当時に比較して村税収入は減少しています。投資事業を計画的に行うことで健全な財政を維持していけると考えています。

問 臨時財政対策債は財政健全化の観点からは過度に依存しないほうが健全では。

村長 通常、起債とは社会資本整備を世代間で平等に負担するための手段として建設事業に充てられています。臨時財政対策債は交付税の財源不足を補填する目的で創設された起債であり、建設事業

以外の一般財源に充てられるもので、通常の福祉や維持管理などの行政サービスに充てることができません。後年度に元利分が100%交付税措置されるものであり、行政サービスの単年度負担の平準化や建設事業の一般財源分の世代間負担などができることを考慮すると、配分された額を借入したほうが財政上有利な場合もあると考えています。

問 限りある財源をより有効に活用するために絶えず事業の見直しや選別が必要と思うがどのように行われているか。

村長 3年間の実施計画を策定し、毎年これをローリングしながら事業を組み立てています。この計画は中・長期的な財政計画ともリンクしていますので、事業の取捨選択は厳格に行っています。

問 優先順位はどのように決めているか。

村長 村民要望の有無、費用対効果、特定財源の有無等を総合的に勘案して決定しています。